

〔研究ノート〕

保育者養成校における「造形」に対する学生の 苦手意識に着目した授業改善方法の検討

大塚 貴之
Takayuki Otsuka

大阪総合保育大学大学院
児童保育研究科 児童保育専攻

造形（表現・活動・遊び）において保育者は指導を通じて表現する楽しさと喜びを伝え、子どもの興味関心を誘発できることが望ましい。しかし保育者養成校において、造形に対し苦手意識を持つ学生が少なくない。これらを問題視する研究者も多く、改善に向けたさまざまな試みが行われており、一定の効果も報告されている。このように実際に起こっている課題を分析しその問題に対処することは重要である。しかし一方で苦手意識の要因についての研究は現状あまり見られていない。そこで本研究では、幼稚園教諭・保育士養成課程の学生の造形に関する苦手意識の要因を明らかにし、授業改善における手がかりを検討することを目的とし、幼稚園教諭・保育士養成課程の学生の「造形に対する苦手意識」に関する自由記述について、KJ法による分析を行った。結果、「自己評価や能力に起因する要因」と「他者評価や感情に起因する要因」を意識し、マインドセットを踏まえた上での個別の要因カテゴリーに対応した指導が求められることに加え、授業内だけではなく導入時や授業後、授業外でのアプローチの重要性、ならびに学生に身につけさせたい力を今一度見直すことの有効性が示唆された。

キーワード：保育者養成、五領域「表現」、造形、苦手意識、KJ法

I 問題と目的

1 造形（表現・活動・遊び）における苦手意識

幼児教育における造形の重要性については、幼稚園教育要領の「表現」のねらいにおいて「（1）いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。（2）感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。（3）生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。」（文部科学省，2018）とされており、保育所保育指針（厚生労働省，2018）とも整合が図られている。幼児の絵画や造形は、上手に絵を描かせることが目的ではなく、発達に応じた手や体の動き、感覚を豊かにすることや、生活の中での様々な発見や感動をイメージする（中島，2019）重要性が示されている。このような造形による子どもに期待される効果が重要視されていることは現場での活動時間において占める割合から見ても明白であり、保育者は指導を通じて表現する楽しさと喜びを伝え子どもの興味関心を誘発できることが望ましい。しかし保育者養成校において、造形（表現・活動・遊び）に対し苦手意識を持つ学生が少なくない。「造形

表現」における初回アンケートにおいて、「美術」は「好き」か「嫌い」かの問いに対し「嫌い」と回答する学生が毎年半数を超える（船木，2021）結果が示されている。これは近年に始まったことではなく、2010年以前から継続して行われている苦手意識の調査においても4年間の平均値で65.1%の学生が造形に対して苦手意識を持っている（佐善，2010）ことがわかっており、またこういった調査は複数存在することからも教育現場において今なお継続して起こっている懸案事項となっている。

また、造形に対する苦手意識や「嫌い」というイメージは多くの場合、卒業後も改善が見られず保育の現場においても脱却できないことが指摘されており、幼児期・児童期から苦手意識をもちながら造形（表現・活動・遊び）を行っている保育者が存在する。（山成，2017）つまり苦手意識は幼少期から社会人にまで継続する場合もあり、その脱却の難しさを示唆している。しかし見方を変えれば現場を目前に控えた学生に対し保育者養成校でこれらの課題に取り組む可能性と意義は大きい。

もちろんこれまで保育者養成校においてこれらの課題を放置していたわけではない。一連の課題を問題視する研究者も多く、改善に向けたさまざまな試みが行われている。例えば幼少期から描画に対して苦手意識を持つ学生を対象に基礎から応用まで系統性を持たせた授業展

開（松下，2015）を行ったり、描くことに対する苦手意識をなくす目的で描画材理解を目的とした造形活動（辻元，2020）を行ったりなど、これらの研究や実践は一定の効果も報告されており、諸問題を軽視せずに改善活動を行ってきた功績は大きい。このように保育者養成校や保育の現場で実際に起こっている課題を分析しその問題に対処することは重要である。しかし一方で苦手意識の要因そのものについての研究は現状あまり進められていない。

2 本研究の目的

そこで本研究では、幼稚園教諭・保育士養成課程の学生を対象に、造形に関する苦手意識の要因を明らかにし、授業改善における手がかりを検討することを目的とする。苦手意識の要因が明らかになれば、その要因に合わせた個別の対処方法を検討する、あるいは複数ある要因に広く対応可能な方法を検討することができ、苦手意識を低減しつつ、授業の改善方策の糸口に繋がるのが期待できる。要因によっては授業や他者の介入だけで改善できない可能性も考えられるが、それらを分類し可視化できれば、別の対処法や、効果の薄いものはあらかじめ避けて実施するといった効率的な対処も可能となるかもしれない。保育者が自身の造形に関する個人的な技量にとらわれず造形をポジティブに指導できることは、子どもに充実した造形活動を提供することにつながると考えられる。

II 方法

令和4年2月中旬～令和5年4月下旬までの期間の中でA市の私立B短期大学生34名、および同B短期大学通信教育部所属の学生31名の計65名を対象として、調査を行った。

1 調査内容

学生の中には、造形に対する苦手意識を持つ者とそうでない者もいるが、後者にも周囲の苦手意識を持つ学生をどう理解しているのか尋ねることで、客観的な意見も集約できると考えられる。そこで、苦手意識を広く把握し授業改善の手がかりとして少しでも多く回答が得られることを重視し「あなたまたは、あなたの周囲に「造形」が「苦手」と思っている人がいた場合、それは何が原因であると思いますか。」という設問を用いた。

2 調査方法

自由記述による質問紙調査を実施した。質問紙調査により得られた回答を基にKJ法（川喜多，1967）を用いた。そして一つの文中に複数の要素が含まれる記述を要素に分けて独立させたところ、有効な総記述数は117となった。その上で意味内容の類似性に基づいて分類・命名し、カテゴリー生成した。カテゴリーは、有識者として本学の造形担当である教員ならびに保育士資格を有する教員の協力を得て作成を行った。回答内容を表1に示す。

表1 造形が苦手な原因

1	作りたい物のアイデアが思い浮かばない。不器用なためうまく作れない。
2	自分を表現するのが恥ずかしく、他の人の作品との比較をしてしまうため。
3	不器用。テキトーにやっちゃう
4	どうしたら上手くなるか仕方がわからない。元から苦手意識がある。不器用であって元から苦手。
5	目で見たものをそのまま描かず、頭の中で無意識に脚色してしまって構造が曖昧になっているから。
6	自分には絵の才能がないと思っている。絵が下手
7	絵を描くのが苦手。表現することが苦手。
8	造形で作りあげたい物を頭の中でイメージするのが苦手だから。
9	不器用で時間がかかるので授業時間内に終わらないし、頭が固いのでどうやって進めてけばいいのかに戸惑うので造形が苦手です。センスもないので…でも前期の授業は楽しめました。先生の授業は楽しく学べます。
10	表現を具現化するのが苦手。またそう言った表現を想像できない。
11	絵をかいたりするのは好きですが、粘土で作る系のことは苦手です。ちょっと難しかったです。
12	私は造形が上手くはないですが、楽しく、苦手とは思いません。苦手な人は表現することがはずかしいという気持ちが強いだけだと思う。
13	周りの子の作品と自分の作品を比べて、差を感じてしまい、苦手と思ってしまっているから。
14	不器用。イメージはできるのにどういう風に作れば良いかわからない。
15	幼いころ、かくことが好きだったが、上手な兄と比べられヘタだとけなされたから（親としてどうよ！ですね）

16	面倒臭い、そういうのが本当に苦手センスとってる。時間がかかる、創造性がないと思っている。
17	完成形が周りと比べて少し雑、ちょっと汚い仕上がりになることがあると思う。人と比べて自分のものに納得がいかないと下手だと感じるし苦手に繋がると思う。
18	発想力、想像力
19	絵心がない・アイデアが思いつかない・絵を描いたりするのが苦手
20	・めんどくさいから・図工、絵が苦手だから・ヘタだから!!!
21	・正しく作らないといけない。失敗しちゃいけないと思い込んでるから。
22	考えて工作をすること、形を整えること、絵を真似する時に写すのが難しい
23	何を造る描けば良いか思いつかない。思ったように完成しない。
24	アイデアが思い浮かばない。経験があまりない。手の器用さ
25	自分の思い通りにいかなかった時や色など失敗したなど感じた時
26	苦手なのは絵心がない。下手だと思うから。子どもは好きとは言っているが不器用だと思う。
27	・うまく書けない・書き方があっていか心配だから・正解があるように感じる
28	ヘタだからやりたくない
29	絵が下手で上手く描けない
30	絵を描くのが苦手だから。
31	絵や工作が上手ではないから
32	・絵を描くのが苦手・切るのが苦手・ものを作るのがあまり好きではない
33	・正解があると思い作業している・周りと比べている
34	・発送をするのが苦手・絵を描いたり、色を塗るのが苦手・周りの人の作品が上手く見えて悲しくなる
35	絵が苦手。想像して作ったり描くのが苦手。周囲とくらべてしまう。
36	過去に、自分の作ったものを他者に、バカにされたり、作品を作った時に嫌な思いをした人が苦手と思う人が多いイメージがある。他人とくらべられたり、評価されなかったりする経験がある人。
37	私が造形が苦手な原因は、はじめから絵が得意ではなく、練習する前から自分は苦手なんだと思い込んでたからだと思う。また、周囲の人に上手だねとほめられたことがなく、下手だねと言われたことがあるから練習しても無駄かなと思っていた。
38	想像することが苦手？こどものころから図工、美術に苦手意識があるから？
39	発想力やアイデアが浮かばないから。手先が器用でないから。
40	造る作業が苦手だから。
41	正解がないからわからない。
42	想像力のとぼしさその物や人に対して関連付けされたり発想する力がない。
43	遺伝子の問題が多くを占めると考えます。
44	どういう物を作ってよいのかはっそうが出来なかったり周りに上手な子がいたりするとやる気をなくしたりしていた。
45	自分の世界を周りに発表すると痛いと思われそう。自信がない。パクリとかいわれそう。造形の評価基準がいまいで、何が正しいが不明確。自分の世界観に他者を引き込む力がない。
46	想像力が乏しい
47	想像力の無さ
48	何も無いところから新しい形を作ることに慣れていないため。
49	想像しているものをそのまま形にする事が苦手。自分の思いを表に出すのが苦手。
50	上手くやらなくてはいけない、という意識が強くて苦手に感じています。園にある制作を見ても、上手なものしか無いので、このレベルが求められるんだ・・・とより苦手に感じます。何となく出来なきゃ保育教諭にはならない、みたいな感覚もあり、恐怖に思えます。本当は、もっと楽しみながらやってみたいです。
51	他の人の作品と比べられて上手下手など評価を受けたからではないでしょうか…
52	図形とか、絵や図工は手が不器用だからです。苦手意識はあります。見るのは好きです。
53	画力がないのと不器用なことが原因かと思います。

54	うまく表現出来ない。
55	手先が、器用で無く、特に折り紙や色塗り チマチマ作業が大変苦手です… それに、お絵描きとかも、アイデアが思い浮かばなく、大変いつも苦勞します。だから、あまり造形は、好きな方では、ありません～…
56	造形に取り組む段階から苦手意識を持っている事が原因だと思います。下手でも良いから自信を持って、楽しんで取り組む事が大事だと思います。
57	これまでに自分で考えて自由に表現したことを褒めてもらえなかったことがあったのかなと感じます
58	動作としては簡単なものでも聞きなれない言葉を長々とと言われるとついつい苦手意識が働いてしまいます。私としては本で学ぶよりパソコン教室のような実践型のほうが好きです。
59	造形するのがめんどくさい。
60	幼い頃、両親と一緒に何かを作った記憶がありません。自分が出来ないことを両親から根気よく教えてもらったこともありません。それが、苦手につながっているのではないかと思います。
61	便利な時代になり、ほしいと思ったものは安く何でも買えてしまうので、なにかをつくる経験が少ないです。私の祖母はよくペットボトルを使って石鹸置きついたり、牛乳パックでタンス内の仕切りをつくったりしていて私も手伝ったりしました。そういった生活の中での環境も原因だと思います。
62	私も苦手という意識があったのですが、スクーリングを受けて、上手にすることや、キレイに仕上げることで目的ではなく、子どもが何に苦勞し、何を発見し、何に歓喜するのかということを知り、一緒に楽しむことが重要ということを学び、苦手から「やや得意」に変わりました。まずは苦手意識を取り除き、楽しむためにはどうすべきかを一緒に考えていくことで気持ちの変化が出るのではないのでしょうか。
63	空間把握が苦手なのが原因かと思っています。
64	芸術的なものは生まれつきのセンスとか好みがあるのに幼稚園～学校でやるからだと思っています。おゆうぎもお絵かきも工作も積木もかけっこも幼稚園から選択科目だったらよいのに、と私は思ってきました。多分勉強とは違って努力すればどうとかいうものではないので、できないことに、根源的な嫌な気持ちと呼び起こすのだと思います。そんな感情はできれば味わわない方がよいのに、繰り返し味わった結果、「美術」「造形」「体育」という文字だけ見ても嫌な気持ちになります。ですからスクーリングは苦痛ですが頑張ってます。頑張ったからといって苦手意識はわかりませんが。
65	こどものときに絵を描いたり、何かを造って完成させたりするのが みんなより遅かったのも そのときから苦手意識ができたのかなと思います。

No.12の「私は造形がうまくはないですが、楽しく、苦手とは思いません」を除去した。

No.58の回答については質問項目に対応した回答となっていないものと判断し削除した。

3 倫理的配慮

質問紙調査をするにあたり、現在造形に関する苦手意識についての研究をおこなっていること、回答に正しい答えや間違った答えというものはないということ、記入は任意であり記入の有無や内容は成績に一切影響しないこと、無記名でかつ個人を特定できるような情報は要求していないこと、もし個人情報に関する記載があった場合にも個人情報の保護に最大限の配慮をすること、収集したデータは適切な方法で保管し、他人にアクセスされないように管理し、研究終了後もデータを適切に処理すること、記入をもって回答に同意したものとすることを説明した上で、回答を依頼した。

Ⅲ 結果

1 KJ法におけるグループ編成

KJ法を行った結果、小分類として「表現力」「描画力」「器用さ」「工作力」「時間不足」「想像力」「未熟感」「煩わしさ」「経験値」「劣等感」「完成度」「羞恥心」「無力感」「生育環境」「正誤意識」に大別された。

「表現することが苦手。／表現を具現化するのが苦手。／うまく表現出来ない。」などから「表現力」カテゴリを作成した。「絵を真似する時に写すのが難しい／絵が苦手。想像して作ったり描くのが苦手。／絵が下手で上手く描けない」などから「描画力」カテゴリを作成した。「手先が器用で無く、特に折り紙や色塗り チマチマ作業が大変苦手です…／不器用なためうまく作れない。／手の器用さ」などから「器用さ」カテゴリを作成した。「形を整えることが難しい／切るの

が苦手／造る作業が苦手だから。／ものを作るのがあまり好きではない」などから「工作力」カテゴリを作成した。「時間がかかる／こどものときに絵を描いたり、何かを造って完成させたりするのがみんなより遅かったのでそのときから苦手意識ができたのかなと思います。／不器用で時間がかかるので授業時間内に終わらない」などから「時間不足」カテゴリを作成した。「作りたい物のアイデアが思い浮かばない。／造形で作りあげたい物を頭の中でイメージするのが苦手だから。／どういう物を作ってよいのかはっそうが出来ない」などから「想像力」カテゴリを作成した。「ヘタだからやりたくない／完成形が周りとは比べて少し雑、ちょっと汚い仕上がりになることがあると思う。／ヘタだから!!!」などから「未熟感」カテゴリを作成した。「面倒臭い／造形するのがめんどくさい。／テキトーにやっちゃう」などから「煩わしさ」カテゴリを作成した。「経験があまりない。／何も無いところから新しい形を作ることに慣れていないため。」から「経験値」カテゴリを作成した。「人と比べて自分のものに納得がいかないと下手だと感じるし苦手に繋がると思う。／周囲とくらべてしまう。／周りの人の作品が上手く見えて悲しくなる」から「劣等感」カテゴリを作成した。「色など失敗したなど感じた時／頭の中で無意識に脚色してしまう／失敗しちゃいけないと思い込んでるから。」などから「完成度」カテゴリを作成した。「自分の世界を周りに発表すると痛いと思われそう。／苦手な人は表現することがはずかしいという気持ちが強いだけだと思う。／自分を表現するのが恥ずかしい」などから「羞恥心」カテゴリを作成した。「遺伝子の問題が多くを占めると考えます。／自分には絵の才能がないと思っている。／頭が固い」などから「無力感」カテゴリを作成した。「幼い頃、両親と一緒に何かを作った記憶がありません。／周囲の人に上手だねとほめられたことがなく、下手だねと言われたことがあるから練習しても無駄

かなと思っていた。」などから「生育環境」カテゴリを作成した。「書き方があっているか心配だから／正解がないからわからない。／正しく作らないといけない。」などから「正誤意識」カテゴリを作成した。

中分類として、「技術的要因」「学習的要因」「比較的要因」「認知的要因」に大別された。「表現力」「描画力」「器用さ」「工作力」は造形において主に「かく」「つくる」などの制作に直接関わってくる個人の技量によるものであるところから「技術的要因」カテゴリとした。「時間不足」「想像力」「未熟感」「煩わしさ」「経験値」は造形の制作プロセスの中でも「着想・発想・構想」までの直接制作に関わる要因というより、一度体験した過去の経験によって消極的なイメージを持っていることから「学習的要因」カテゴリとした。「劣等感」「完成度」「羞恥心」は他者評価や、制作物を他者に見られることによる恥ずかしさや不安に関する点で共通しているところから「比較的要因」カテゴリとした。「無力感」「生育環境」「正誤意識」は遺伝子やセンスなど、自身が生来的に持っているものに起因すると感じているものと、造形に関する価値観や信念、態度に関連するものとして「認知的要因」カテゴリとした。

大分類として「自己評価や能力に起因する要因」「他者評価や感情に起因する要因」に大別された。「技術的要因」「学習的要因」は主に制作する上での技量や知識・理論の部分に課題が見られ、自分に属する要因による苦手意識である点で共通していると考えられるところから「自己評価や能力に起因する要因」カテゴリを作成した。「比較的要因」「認知的要因」は正誤意識による制作時の失敗への恐れや、生来才能がないと思っている点など原因は自分より、他者や外的要因によってもたらされていると感じており、感情に影響を与えている点で共通していると考えられるところから「他者評価や感情に起因する要因」カテゴリを作成した。分類結果を表2に示す。

表2 KJ法による分類

大分類	中分類	小分類	回答内容
自己評価や能力に起因する要因	技術的要因	表現力	表現することが苦手。／ 表現を具現化するのが苦手。／ うまく表現出来ない。／ 自分の思いを表に出すのが苦手。／ 想像しているものをそのまま形にする事が苦手。／ イメージはできるのにどういう風に作れば良いかわからない。／ どうしたら上手くなるか仕方がわからない。／ など
		描画力	絵を真似する時に写すのが難しい／ 絵が苦手。 想像して作ったり描くのが苦手。／ 絵が下手で上手く描けない／ 目で見ただけをそのまま描けない／ 画力がない／ 絵心がない／ 絵を描いたり、色を塗るのが苦手／ など
		器用さ	手先が器用で無く、特に折り紙や色塗り チマチマ作業が大変苦手です…／ 不器用なためうまく作れない。／ 手の器用さ／ 不器用なことが原因かと思います。／ など
		工作力	形を整えることが難しい／ 切るのが苦手／ 造る作業が苦手だから。／ ものを作るのがあまり好きではない／ 絵をかいたりするのは好きですが、粘土で作る系のことは苦手です。ちょっと難しかったです。／ など
	学習的要因	時間不足	時間がかかる／ こどものときに絵を描いたり、何かを造って完成させたりするのがみんなより遅かったのものでそのときから苦手意識ができたのかなと思います。／ 不器用で時間がかかるので授業時間内に終わらない／ など
		想像力	作りたい物のアイデアが思い浮かばない。／ 造形で作りあげたい物を頭の中でイメージするのが苦手だから。／ どういう物を作ってよいのかはっそうが出来ない／ 想像することが苦手？／ 表現を想像できない。／ 発想するのが苦手／ 想像力／ 想像力の無さ／ 発想力／ など
		未熟感	ヘタだからやりたくない／ 完成形が周りと比べて少し雑、ちょっと汚い仕上がりになることがあると思う。／ ヘタだから !!!／ 自信がない。／ など
		煩わしさ	面倒臭い／ 造形するのがめんどくさい。／ テキトーにやっちゃう／ など
	他者評価や感情に起因する要因	経験値	経験があまりない。／ 何も無いところから新しい形を作ることに慣れていないため。
		劣等感	人と比べて自分のものに納得がいかないと下手だと感じるし苦手に繋がると思う。／ 周囲とくらべてしまう。／ 周りの人の作品が上手く見えて悲しくなる／ 他の人の作品と比べられて上手下手など評価を受けたからではないでしょうか…／ 周りに上手な子がいたりするとやる気をなくしたりしていた。／ など
	比較的要因	完成度	色など失敗したなと感じた時／ 頭の中で無意識に脚色してしまう／ 失敗しちゃいけないと思い込んでるから。／ 思ったように完成しない。／ 自分の思い通りにいかなかった時／ 上手くやらなくてはいけない、という意識が強くて苦手に感じています。／ など
		羞恥心	自分の世界を周りに発表すると痛いと思われそう。／ 苦手な人は表現することがはずかしいという気持ちが強いだけだと思う。／ 自分を表現するのが恥ずかしい／ 何となく出来なきゃ保育教諭にはなれない、みたいな感覚もあり、恐怖に思います。 本当は、もっと楽しみながらやってみたいです。／ など
	認知的要因	無力感	遺伝子の問題が多くを占めると考えます。／ 自分には絵の才能がないと思っている。／ 頭が固い／ 元から苦手意識がある。／ 私が造形が苦手な原因は、はじめから絵が得意ではなく、練習する前から自分は苦手なんだと思込んでたからだと思う。／ そうというのが本当に苦手。 センスとってる。／ 空間把握が苦手なのが原因かと思っています。／ など
		生育環境	幼い頃、両親と一緒に何かを作った記憶がありません。／ 周囲の人に上手だねとほめられたことがなく、下手だねと言われたことがあるから練習しても無駄かなと思っていた。／ 便利な時代になり、ほしいと思ったものは安く何でも買ってしまうので、なにかをつくる経験が少ないです。私の祖母はよくペットボトルを使って石鹸置きついたり、牛乳パックでタンシ内の仕切りをつくったりしていて私も手伝ったりしました。 そういった生活の中での環境も原因だと思います。
		正誤意識	書き方があっているか心配だから／ 正解がないからわからない。／ 正しく作らないといけない。／ 正解があるように感じる／ 正解があると思い作業している／ など

2 KJ法における図解化／文章化

グループ編成した要因の図式化したものを図1に示す。

各要因間の関係性についての解釈を下記に示す。「表現力」「想像力」はそれぞれ「考える」「作る」「描く」の活動が含まれている点で類似性が高く「想像力」は「表現力」に影響を与える。「描画力」と「工作力」は共に、イメージを出力する点で類似性が高い。「未熟感」と「経験値」は試行回数が少ないことに起因する点で類似性が高く相互作用の関係性がある。「器用さ」と「時間不足」は限られた制作時間内で思うように制作することが難しい点で類似性がある。「劣等感」と「羞恥心」は他者からの否定的な評価によって心境が変化するという点で類似性があり「劣等感」から「羞恥心」への時間的流れがある。「無力感」と「生育環境」は生来的であると本人が考えている点で類似性がある。

「イメージ出力」と「制作時間」間の関連性は強い。イメージ出力は試行回数に影響を与える。「イメージ出力」が、「表現力」に与える影響は大きい。「想像力」は「表現力」に影響を与える。「考える・作る・描く」は「完成度」に与える影響が大きい。「試行回数」は「完成度」に影響を与える。「制作時間」は「試行回数」と関

連性がある。「完成度」「劣等感」「羞恥心」は順序的な関係性がある。「無力感」と「生育環境」は関連性がある。「劣等感」「羞恥心」と「正誤意識」は互いに強調しあう関係性を持つ。「試行回数」は「完成度」に影響を与える。「完成度」は「否定的な評価」に影響を与える。「正誤意識」と「否定的な評価」は強調する関係にある。「生育環境」と「経験値」は関連性がある。

Ⅳ 考察

KJ法を行った結果、実際は制作を行う上で、「描く」ことが苦手なのか、「作る」ことが苦手なのか。または「制作の遅さ」「発想力の問題」など、より具体的に力不足を感じていることが明らかとなった。

今回明らかになったカテゴリーを参照し担当学生の苦手意識がどの要因から生じているのか把握して、それに応じた授業や指導等を検討することが有効ではないだろうか。その際には、図解化／文章化においてみてきた各要因の関係性を考慮することも、ヒントになるかもしれない。例えば「正誤意識」が要因となっている学生に対して、作品の事例や評価ポイントをあらかじめ伝えることが効果的であると考えられるが、それに加え「正誤

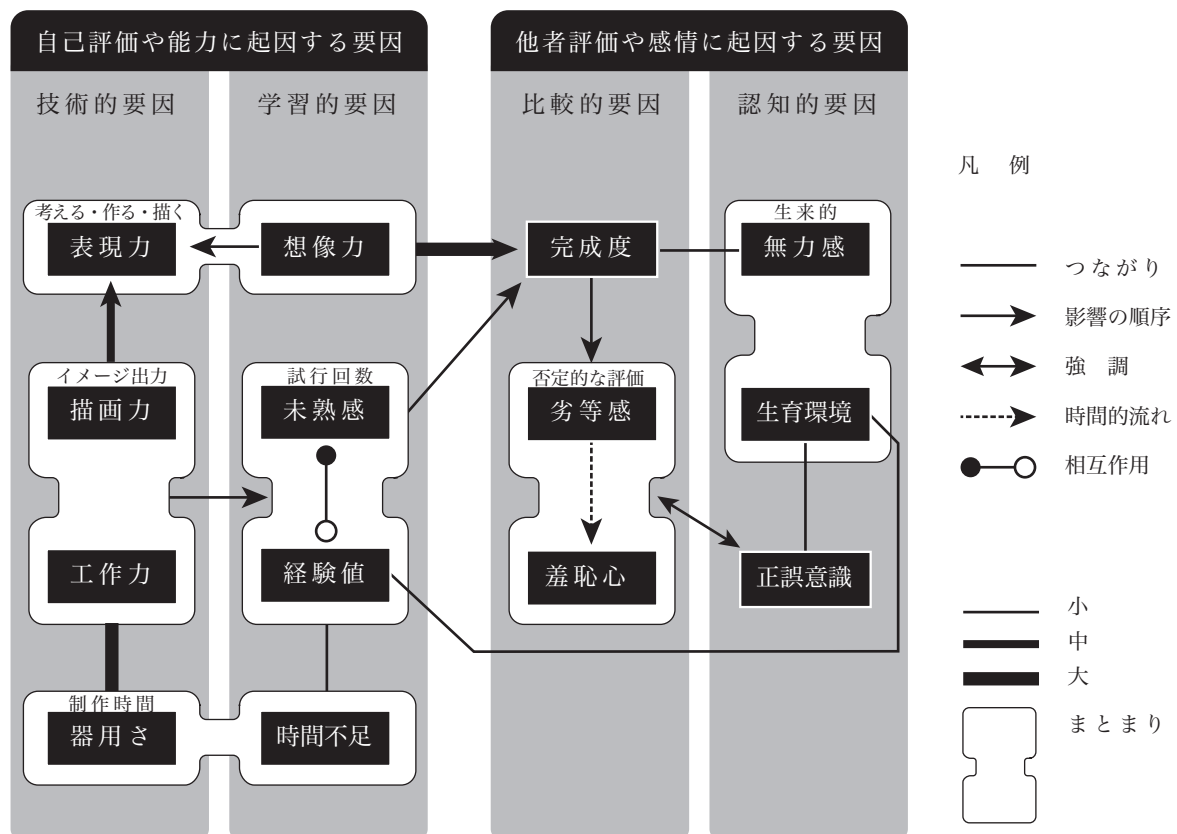


図1 グループ編成した要因の図解化

意識」に関連する「劣等感」「羞恥心」についても着目し、造形活動において失敗したと感じてもそれを活かし、楽しみながら制作する観点や柔軟性、他者の作品の良いところを見つけるコツとして作品の観察ポイントを例示する言葉がけなど、授業や指導の内容・方法に反映させることで効果が高まる可能性が推測されるといったことである。このように各要因への対処方法については多様な対応方法が考えられるが、おおよその方向性を見出すべく考察を行った。

「技術的要因」に対しては作品の完成度が高まるよう、技術的な上達を促す理論的な知識の補填、ならびに失敗を恐れず繰り返し制作を行うことで苦手意識低減の効果が期待できる。授業実践型の研究の多くはこの点の技術的改善を目的としているものが多く、元来基礎的な技術の向上を目的とした授業実践は他の要因と比較した場合でも造形担当の教員として最も時間と力を注ぐことが多い要因のひとつだろう。

「学習的要因」は過去に何度か挑戦した上で挫折を経験している可能性があり、失敗から造形に対して積極的に捉えられないまま活動している可能性が考えられる。そこで作品を制作する上でのアイデアを出すヒントやコツ、事前のイメージトレーニングや事例の提示が効果的であると考えられる。また、イメージ通りに制作が進まない場合においても、本来造形の制作プロセスはスタートからゴールという単純な道筋ではなく、着想・発想・(構想・制作)・完成／展示の過程において特に構想と制作は何度も行き来するのが当たり前であるということを理解できるよう、現時点でできているところから見立て活動に適宜切り替えながら完成に向かえるよう言葉がけを行うことが望ましいと思われる。

「比較的要因」の場合、制作時の不安を最小限に留め、時間的ゆとりを持って作品と向き合えるよう、制作物のテーマや概要を授業外または1週間などに、あらかじめ告知しておくことが望ましいと考えられる。また自身の考えを作品上で表現することは制作上、重要であることを全体に伝えることで制作に集中できるよう促す。また他者や自身の作品の長所を抽出できる観察眼を養う助言を行う。作品の長所を繰り返し見つけることで、自身の作品に対しても肯定的に向き合える効果が期待できる。

「認知的要因」については自分には才能や能力が元々備わっておらず、努力しても能力は伸びないものと感じている可能性がある。そこで能力は決して固定的ではなく伸びるものであることを伝えとともに、造形手法についてもモダンテクニック、オートマティスムなどを活用した課題にするなどし、学生が開放的に制作に打ち込める土壌と、個人のスキルに大きく依存しない表現方法

があることを学ばせ、造形活動の楽しさを体験させることが効果的であると思われる。

造形に関する苦手意識について「自己評価や能力に起因する要因」なのか、「他者評価や感情に起因する要因」なのかによって対処方法とタイミングに違いが発生することに注目したい。この2つの特徴として「自己評価や能力に起因する要因」は授業内で行う実践内容に関わる要素が大きく、対して「他者評価や感情に起因する要因」においては、造形への関わり方や、展示した作品の鑑賞方法、課題の予告など、授業外または導入時や授業終盤のクローズセッション時の活動が多い。また造形に関する能力が「才能によるもの」なのか、「習得可能な技能」と思っているのか造形に関するマインドセット(渡辺, 2017)を意識できれば苦手意識にアプローチする方策を2軸で捉えることとなり、より焦点化した対処が行える可能性が高まると考えられる。また、違った切り口として、科目にとらわれず苦手意識改善の授業実践研究を調査したところ、グループにより苦手意識を低減できる研究(野田ら, 2015)もいくつか報告されていたことから、グループ制作の可能性についても今後の教材研究と授業開発の参考としたい。グループで制作を行うことにより、周囲とのコミュニケーションで、他者評価されるという意識を和らげる。または、協同で制作することで仲間が造形にどう向き合っているのか、造形に対する姿勢の参考になるかもしれない。またグループ活動はアクティブラーニングのシンク・ペア・シェアのように個人の意見を発表させるのではなくチームでの意見集約結果の発表とすることで発表による精神的抵抗感を緩和する効果がある。このようなグループ活動の特性を活かし、「個人の作品」という枠を取り払う効果も期待できるのではないだろうか。

今回の研究では、授業改善方法を主体として学生の「苦手意識」を調査し、KJ法による検討をおこなった。そして授業改善に関わるおおよその概要については把握できたが、苦手意識そのものの全容についての把握には及ばなかった。各要因にどのように対応していくのか、おおよその対応策の足がかりについては考察できたが、苦手意識のさらなる全容が明らかになることで造形担当教員の工夫や手腕だけでは対処することが難しい特性なども見えてくるかもしれない。今後質問項目の見直しや、現場の教員へのインタビュー実施などさらなる深度化が必要である。

劣等感・完成度・羞恥心・無力感・正誤意識などの特徴を振り返ると、学生は造形に対していかに「完成度を高めるのか」を重要視しているように見て取れるが、果たして「美術的な完成度の高さ」がどれだけ重要なのだ

ろうか。保育者養成校の授業実践において特に表現領域では楽器演奏の技術や美術的な観察眼や表現力などを含めた、いわゆる技術的な鍛錬を重視した結果その領域のプロフェッショナル育成が到達目標となってしまうがちであるように感じる。技術的な上達に関しては否定するものではないが、本来伸ばしたい力についても見直しの余地があると考えられる。造形教育のひとつの理想として、接続カリキュラムを意識しに就学前に子どもの美術的な力の素地を育てるかといった学びの連続性を考慮し見直しを持って指導することは自然であり、それを将来保育者として担当することになる学生にとって個人の技能や感性は伸ばせるだけ伸ばせる環境があることは理想である。しかし短期大学の2年という限られた期間の中で保育者としていかに指導力をつけるかが本来、重要になってくるのではないだろうか。造形に対して、多少なりとも嫌悪感を抱いてしまった学生がいる一方で、ほぼ全員が子どもに対して好感を持ち、子どもと関わることを指向している(照沼, 1999) 性質を保育者養成校の学生が有していることから、保育者は子どもが好きだから保育者になりたいのであって、専門分野のプロになることの優先度を高く設定する必然性はそう高くないと考えられる。本人が絵を描くことが得意になることよりも造形が子どもにとっていかに重要であり大切であるかについて理解するとともに、子どもに造形の楽しさが伝えられ、その喜びを共に分かち合える活動のできる保育者を養成することにこそ意義があると言えるのではないだろうか。そのためにはまず種々の課題を克服し、いかに造形を前向きに捉えられるよう介入できるか、教員としての関わり方が問われている。より一層の現場を意識した教材開発及び、造形に対する価値観や信念、態度の見直し並びに、授業実践方法の深度化が望まれる。

文献

- 船木美佳. (2021). 教科「美術」の苦手意識解消を目的とするアートプログラムに関する考察. 浦和大学・浦和大学短期大学部浦和論叢紀要, 64, 79-90.
- 川喜田二郎. (1967). 発想法－創造性開発のために. 中公新書厚生労働省. (2018). 保育所保育指針
- 松下明生. (2015). 幼児の造形活動と小学校図画工作科の内容分析: 文部科学省検定済教科書に見る幼児課題との同一性と教育内容の変遷. 名古屋柳城短期大学, 37, 75-86.
- 文部科学省. (2018). 幼稚園教育要領
- 中島法晃. (2019). 造形指導に不安を抱える保育者にとって有効な表現素材と活用のあり方～保育者研修会のワークショップ事例を通じて～. 岐阜女子大学紀要, 49, 59-65.
- 野田千裕・若杉祥太・林徳治. (2015). 高校生の古典に対する苦手意識の改善に関する検討(教科教育, 一般研究, 教育情報と人材育成～未来を育む子供たちのために～). 年会論文集, 31, 210-211.
- 佐善圭. (2010). 保育者養成校における造形教育の新たな授業試案とその成果－切り紙、染め紙を使用した造形指導の実践的研究－. 岡崎女子短期大学研究紀要, 43, 31-40.
- 照沼晃子. (1999). 保育課程履修大学生の図画・工作に対する意識に関する一考察. 美術教育学美術科教育学会誌, 20, 255-266.
- 辻本恵. (2020). 保育者養成における造形活動についての考察: 描画に対する「苦手意識の解放」を目指して. 神戸教育短期大学教育実践研究紀要, 2, 17-23.
- 渡辺研次. (2017). 大学生のしなやかマインドセットの発達(上). 大阪経大論集, 68, 1-24.
- 山成昭世. (2017). さまざまな技法で平面に表す造形表現について: 絵の具やパスを使った表現力を高めるための試み. 京都聖母学院短期大学研究紀要, 46, 47-59.

謝辞

本研究のために質問紙調査にご協力いただいた保育者養成校の学生のみなさまに深く感謝申し上げます。

付記

本論文に関して、開示すべき利益相反事項はない。

Methods for Improving Classes that Focuses on Students' Awareness of Weaknesses in “Modeling” at Childcare Training Schools

Takayuki Otsuka

Osaka University of Comprehensive Children Education Graduate School

When teaching art (expression, activity, play), it is desirable for childcare workers to be able to convey to children the fun and joy of expression and to stimulate children's interest. However, at child care training schools, there are many students who are not good at modeling. Many researchers regard this as a problem, and various attempts have been made to improve it, with some results reported. It is important to analyze the issues that are actually occurring and to deal with them. However, on the other hand, there is not much research currently being conducted on the factors behind people's dislike of modeling. Therefore, in this study, we aimed to clarify the reasons why students in kindergarten teacher/nursery teacher training courses are not good at art, and to find clues for improving lessons. Free descriptions regarding “awareness of weaknesses” were analyzed using the KJ method. As a result, it is necessary to be aware of “factors caused by self-evaluation and ability” and “factors caused by other people's evaluation and emotions,” and to provide guidance that corresponds to individual factor categories based on mindset. In addition, it was suggested that the importance of approaches both in and out of class and the need to reconsider the skills that students should acquire.

Key words : childcare teacher training, five areas “expression”, molding, weak awareness, KJ method